

伊勢佐木界限140年

平野正裕／横浜市史資料室主任調査研究員

●イセザキ140年の概観●

- ◆横浜開港直後の「盛り場」……関内／洲干弁天社附近・元町付近
- ◆関外開発期……慶応2(1866)年～明治7(1874)年
 - 慶応大火 K2.10.20・1866／関外開発の本格化／遊郭・下田座・洲干弁天社の移転(羽衣町)
 - 松ヶ枝町・賑町・長島町の成立 M6／伊勢佐木町の成立 M7.5.20
 - (伊勢屋中村治兵衛・佐川儀右衛門・佐々木新五郎)
- ◆興行街成立期……明治7(1874)年～
 - 【劇場】山中座 M7／増田座 M9 → 薦座 M13?／今村座 M9／伊勢村座 M9／佐の菊座 M10
 - ／栗田座 M12／勇座 M13／賑座 M13／下田座さの松→下田座平清→羽衣座 M15
 - ／両国座 M28 → 喜楽座／相生座 M28
 - 【寄席】富竹亭 M18 新築(色物席→浄瑠璃席)／新富亭 M17・新富竹(色物席)…
- ◇雲井町大火 明治32(1899)年8月12日
- ◆名店街勃興期【伊勢佐木町+松ヶ枝町】……20世紀初頭・明治42(1909)年～
 - 「伊勢佐木町通り」の拡幅
 - 亀楽せんべい・花見せんべい・有隣堂・大和屋シャツ店…
 - 高級品販売店：勸工場－横浜館・帝国商品館／呉服店の自己革新－越前屋・野澤屋
- ◆興行街転換期－芝居・寄席から活動写真へ……明治41(1908)年～
 - 喜楽座の映画への傾斜と「大歌舞伎」「連鎖劇」／洋画封切館のオデロン座の開業／
 - 劇場の映画常設館化
- ◆外部資本進出期……大正5(1916)年～
 - 松竹による横浜座、吉本興行による横浜花月の経営／元町・不二家の進出
 - 森永キャンデーストア／吉田橋鶴屋
- ◇関東大震災 大正12(1923)年9月1日
- ◆デパート・シネマ集客期
 - 劇場→本格的に復興せず／映画館→すみやかな復興／喜楽座の孤軍奮闘
 - 野澤屋の百貨店展開 T10～／鶴屋吉田橋進出 T13 → 松屋横浜支店／
 - 相模屋移転(寿町→伊勢佐木3丁目)／越前屋の破綻→鶴屋百貨店～壽百貨店／松喜屋
- ◇戦争受難期……昭和12(1937)年～昭和33(1958)年
 - 戦時－空襲被害・建物疎開・接收／戦後⇒米軍による接收
- ◆戦後解放期～高度成長期～現代
 - 1950年代⇒アーケードの設置…昭和31年
 - 1960年代⇒シネマの凋落／「関内駅」開業／横浜駅西口開発の始まり
 - 1970年代⇒野澤屋の「ノザワ松坂屋」「横浜松坂屋」商号変更…昭和49/52年
 - 松屋の撤退／「イセザキ・モール」の実現…昭和53年
 - 1980年代⇒3・4丁目モール…昭和57年 1990年代⇒デパートの集客力低下
 - 2000年代⇒「横浜松坂屋」閉店 2008年 【現状】外食チェーンのまち

●本日の課題……明治～昭和前期のイセザキの繁栄と変容を知ること

●盛り場イセザキの成立●

I 慶応大火と関外開発

慶応2(1866)年10月20日関内大火…中心部居留地・日本人街に延焼

死者多数/港崎遊廓の全焼→吉原遊廓へ *埋立の進捗

山手外国人居留地の設定・ブランドンの横浜改造計画・「日本大通り」「横浜公園」

明治2(1869)年 鉄の橋「吉田橋」竣工

明治3年「下田座さの松」の羽衣町開業/洲干弁天社の羽衣町移転→巖島神社

明治4年吉原遊廓の焼失→高島町移転

明治6年松ヶ枝町・賑町・長島町の命名・成立

明治7年5月20日「伊勢佐木町」の命名・成立(伊勢屋中村治兵衛・佐川儀右衛門・佐々木新五郎)

「横浜開港史への新しい一頁 伊勢佐木町を買取つた資料発見」(『横浜貿易新報』昭和7.12.17)

登場人物…吉田勘兵衛・飯田助太夫廣配・新門辰五郎

吉田の土地を飯田が「永借」して埋立、明治5(1872)年飯田の永借地1000坪を、

新門が3500両で買い取り、浅草寺出張所・説教所建設……「賭場」にする魂胆か?(×)

寺社と侠客との関係、浅草寺別院の建設(福富町付近)

※関外開発への地域民間資本の導入を証明

II 盛り場イセザキの実況

「横浜市の遊樂地」『横浜市商業会議所月報』第4号(明治30年1月29日号)

①独り伊勢佐木町通りの繁華雑踏実に肩摩鞞撃(けんまこくげき)…

②横浜港唯一の最大熱鬧場(ねつどうば)にして遊歩者の多数なるにあり…

其遊歩人種の外来者少なくして本港民の多きにあり…

③五分間の往復約五百人…

④【表1】

⑤昔しより云ふ京の衣倒れ大坂の喰ひ倒れと、開港場民は双者を具して特に食ひ道楽に傾くを証す…

⑥要するに伊勢佐木町通りは港民唯一の公共的遊歩場にして、其繁華雑踏は実に本港の進歩發達を証するものなりと雖も…

エリザ・シドモア(Eliza Ruhamah Scidmore)がみたイセザキ

※“Jinrikisha Days in Japan”(1891年刊) 邦訳:外崎克久訳『シドモア日本紀行』(2002年刊)

弁天通りの先にある広い通り[馬車道]には、運河を跨ぐ鉄橋[吉田橋]があります。入江から運河が市内のあらゆる方向へ延び、水路網がミシシツピ湾から神奈川まで縦横に巡っています。この鉄橋を越えると伊勢佐木町で、道半マイル[0.8キロ]に劇場、見世物、メリーゴーラウンド、際物ゲーム、菓子屋、レストラン、古着バザー、骨董の迷路、玩具、瀬戸物、木工細工の店があります。

数百人の屋台主がキッチン付き巡回車を引き、肩には棒を掛けてあちこち歩き回ります。

アイスクリーム屋と呼ばれる販売人もたくさんいて、グラスに削り氷を入れて砂糖をまぶし、小さな茶匙を添えます。

さらに刺激的な醤油味で食べる国産マカロニ・蕎麦を売る人もいます。また1銭銅貨を払うと、小柄なボーイが大きな焼き網のある席に餅やバターや醤油入れを運び、客自身がホットケーキ風に料理して食べます。

自分で研究したり、感激したりする中下層の庶民の熱気にあふれ、私たち見物人は、この刺激的

パザーに展開される屋外ドラマやパノラマ風景に飽きることがありません。

Ⅲ 雲井町大火と復興

明治 32 (1899) 年 8 月 12 日「雲井町大火」→伊勢佐木通り拡幅… 8 間に

『横浜繁盛記』(明治 36 年刊) にみる商店一覧……すみやかな復興【表 2】

●イセザキの芝居と寄席●

I 横浜演劇の特長とその活気

明治 5 (1872) 年鉄道開業…一流芝居は東京で／新春顔見興行を前に横浜で興行

下田座／明治 5 年 1 月 6 日下田座さの松へ河原崎権十郎 (のち九世團十郎)・市川左団次の来演

明治 15 年羽衣座開業に團十郎で「一ノ谷」

増田座→蔦座／明治 9 年 8 月こけら落としに團十郎来演

明治 15 年 5 月中村仲蔵・尾上多賀之丞「和解睦会筵 (うちとけてむつみのかいえん)」

明治 20 年火災後新築で五世尾上菊五郎来演

明治 21 年 9 月中村福助 (のちの五世歌右衛門)「義経千本桜」

明治 23 年 8 月 24 日川上音二郎「オッペケペー」

明治 27 年 2 月菊五郎・猿之助・坂東家橘 (のちの十五世市村羽左衛門)

伊勢佐木の地元芝居の典型…賑座…「ハンケチ芝居」…ハンケチ女・愚連隊

一流役者にたよらぬ興行／関三十郎・市川荒二郎ら地元スターの輩出

進取の気風と芝居の活気

川上音二郎と改良演劇…蔦座／翻訳劇「正劇」…喜楽座

山口定雄・定子父娘のケレン芝居…電気応用・宙乗り…「傾く (かぶく)」精神

山野芋作 (長谷川伸) の「横浜音頭」

ニュースと演劇のはざま

下田座さの松「噂廻松蚊槍夜話 (うわさのまつかやりのよばなし)」明治 13 年 6 月

賑座「橋開市街賑 (はしひらきちまたのにぎわい)」明治 44 年 10 月

珍優・市川荒二郎／屋号・三河屋

●六代目三遊亭圓生／「塩原多助一代記」市川荒二郎の舞台

「あおを立木へつないで、わかれを告げて、多助が行きかける……ここんところは、お客を泣かせるところで すからねエ、あたりまいならば竹本 (義太夫) でもって、ぐっと締めるとこなんですけれども、いきなり、ちゃちゃちゃりん、ちゃりん、ちち、とちちりん……、てんで、『米洗い』みたいな三味線になって、鳴物がにぎやかにはいる……へへ、それじゃアちつともあわれっぽくないんですよ。「あれあれ……」と思って、見てると、多助が、右足をとんと踏んで、左足をうしろへ跳ねあげる……と、そのわらじを、馬がくわえて引っぱ るんで、とんとんとんと、さがってくる。くわえていたのを、ぼんとはらって、その左足をとんと前へ出すと、左肩ンところへ、馬の首が出てくるやつを両手でかかえてると、からアん、と、つけがはいって、大見得を切るんですね。するてえと、見物はもう、わアわアというかつさいで……いや、あたくしア実にも、おどろいた。あんな『馬のわかれ』は、あとにもさきにも見たことはありません。」

※三遊亭圓生著『寄席切絵図』1977 年刊

●長谷川伸の市川荒二郎評…元来横浜の芝居に批判的！

「三河屋荒二郎は新奇と愚劣な、多くの台本をつくり上演したといふが、その一つしか私は憶えてゐない。或はこれは上演しなかったかも知れず、浅草の金龍館でやったかの如くにも聞いてゐる。上演の有無は別として、荒二郎のつくった台本の見本にはなるだらう。」

それは「新釈太閤記」といひ、明智光秀が山崎の一戦に敗れて、自動車に乗って戦場を脱し、それを知った羽柴秀吉が航空機で追跡し、大阪の梅田で追いつき、光秀をして完全敗北なさしめるといふ筋で、全体にわたってギャグがあり、笑はせつづけるといふ物であった。小来栖の農民の竹槍に刺されて死んだ光秀は、この芝居では替へ玉であるとなつてゐる。これは大正初期であるから、自動車も航空機も今日のやうに、サンダル如く、キッドの靴の如く考へるには、まだ距離があつたのだから、突ッ飛ではあるが事物のとり入れ方が新しかった。後のアチャラカ芝居又は軽演劇の源流的なものと云へばいへる。と同時にこれは、十郎・五郎による曾我廼家喜劇と一脈通ずるものの如くである。」 ※長谷川伸著『横浜白話』1954年刊

II 横浜演劇とその後退過程

「団・菊・左」の相次ぐ逝去→明治歌舞伎の終えん

活動写真の進出…新作の到来…実写映画から劇映画へ…低級芝居や寄席「見世物」に影響

羽衣座の凋落…1911（明治44）年に歌舞伎座連最後の出勤

喜楽座の興隆…佐々木染之丞と轟由次郎／時代に即した柔軟な経営

喜楽座…活動写真への対応…巡回興行・駒田好洋の根城に

「幕間毎お倦の出ぬよふ、極斬新活動写真を御覧に入候」1911（明治44）年1月15日

羽衣座の焼失と賑座の「朝日座」改称、映画常設館への転身…喜楽座へ役者集中

賑座・朝日座→市川荒二郎／羽衣座→松尾次郎

松竹の東京進出と横浜座支配（1915・大正4年）…座付き役者・雇人の解雇

松竹の演劇改良、大谷竹次郎「東京で当たった芝居ばかりで無駄がない」

横浜座への「大歌舞伎」集中

歌舞伎座・帝国劇場・市村座の三派勢力の出勤・共演

連鎖劇の喜楽座…大正4年3月椅子席・花道着脱式に構造転換

天活（小林喜三郎）との関係…連鎖劇「横浜双紙」（『横浜貿易新報』1915.8.23）

ロケーションのころみ ⇄ スタジオ撮影主体

映画雑誌への紹介「悲劇遊廓の夜話」「悲劇鈴の音」など

警視庁令「活動写真興行取締規則」…営業日数の制限…東京の連鎖劇退潮

喜楽座の連鎖劇に影響…京都・大阪ではなお盛況

横浜劇場の新設（花咲町）とその蹉跌、歌舞伎座の焼失（1921.10）…再建途上大震災

専門劇場不在の町に…「横浜新派」は地方巡業へ

III 洋画輸入と封切館オデロン座

実写映画からドラマへ

喜楽座「極彩色活動大写真会」チラシにみる明治後期洋画上映の様相

仏メリエス社－「マニラ写真会」－日本：Mパター／巡回興行

「世界一の馬鹿大将と粗忽な従者との滑稽」⇒ドンキホーテ

「青春男女結婚の邪魔」⇒セビリアの理髪師

映画フィルムの輸入…純正／セコハン／デュープ

オデロン座の設立と「封切り」…明治44年12月25日

ニーロップ商会…「ジゴマ」の輸入、オデロン座の設立…大戦下、平尾商会に経営移行

雑貨商…セルロイド製品・サニタリー品などの輸入

平尾商会…イタラ社に売買契約書存在、正規輸入…オデロン座「封切り」の語を生む

連続活劇「名金」（米ユニヴァーサル）の上映

イタリア・サイレント映画の金字塔「カピリア」の日本初公開

ドイツ映画「プラーグの大学生」「眠り男（カリガリ博士）」

横浜の洋画輸入商…ウゴマズリ商会・万国フィルム商会など
オデヲン座の「封切り」興行

「封切り」最盛期…1913～15年（イタリア映画全盛期…アンプロジオ社・イタラ社）

詳細な解説書つき上映、「弁士にヨタを飛ばさせない」平尾榮太郎

第一次大戦とヨーロッパ映画の退潮

オデヲン座のアメリカ映画上映への傾斜

15-16年ユニヴァーサル、16-17年カレム、18年メトロ、19-20年クリスティ、

21-22年ゴールドウィン、22年フォックス

ハリウッド資本と他国映画資本の日本市場認識の差異

ハリウッド…ユ社は日本支店を、その他の資本は日活・天活・大活・松竹と契約を

記念電気館→喜音満座…ユ社「ブルーバード映画」上映館に

独立系商社の活動狭められる…オデヲン座は松竹傘下に

IV 伊勢佐木の寄席と吉本興行部の新富亭買収

明治30年代半ばの寄席

【関内】富竹亭（義太夫）真砂町4

【伊勢佐木町通り】新富亭（色物）松ヶ枝町／喜久廻家（かっぱれ）松ヶ枝町／日吉亭（講談）

賑町1／寿亭（浪花節）賑町2／富松亭（怪談・電気仕掛）賑町2／長島座（をどり）長島町3

【伊勢佐木界限】若竹亭（講談）若竹町／新盛館（講談）久方町

【旧吉田新田内】萬竹（浪花節）松影町／横浜亭（怪談・電気仕掛）松影町1／松影亭（講談）松影町／松福亭（講談）寿町2

新富亭と三遊派「快樂亭ブラック」（本名：ヘンリー・ジェームス・ブラック）

1858年オーストラリア北アデレード市の生まれ。日本で最初の外国人咄家である。日本で新聞を発行していた父親ジョン・レディ・ブラックの所へ呼び寄せられて、母親と一緒に1865（慶応元）年頃来日。明治十年代はじめに演説会に誘われて出演。明治12年、馬車道の富竹亭が、寄席への初登場。芸人としての道を歩むようになるが、親戚中の反対で、一時英語塾を開く。1891（明治24）年に三遊派に加入し、「快樂亭ブラック」の看板を上げる。新作落語を自作自演、べらんめえ口調のおかしな外国人芸人となり人気を得た。その後飽きられ人気を失い、地方廻りとなり、旅先で自殺未遂。最後は東京へ帰ったが、関東大震災直後の1923（大正12）年9月19日東京・目黒 中丸の自宅で死去。65才。

大阪・吉本興行部の経営展開…豊田四郎監督「花のれん」／大庭秀雄監督「横堀川」

新富亭⇒1923（大正12）年1月「横浜花月」へ…関東進出の第1歩／6月21日番組…三遊派

●呉服店からデパートへ●

I 商店街としての伊勢佐木町

◆伊勢佐木…雲井町大火ののち、興行街から名店街へ／伊勢佐木の集客力に名店が進出

【明治後期～ / 繁昌は土一升にかねの橋、ゆきゝの人も杵に盛るほど】

勸工場…横浜館・帝国商品館 名物…亀楽せんべい／花見せんべい／みのや

明治42（1909）年…開港50年祭…越前屋呉服店3層新店舗／野澤屋呉服店伊勢佐木支店開業

大正2（1913）年…大和屋シャツ店支店（松ヶ枝町）、大正11（1922）年…不二家（元町→）

【関東大震災後～昭和前期】

大正13（1924）年…森永キャンデーストア、鶴屋（亀の橋→吉田橋）

昭和5（1930）年…松屋横浜支店、相模屋 昭和6年…百貨店・越前屋開業（のち壽百貨店）

萬珍楼（中華街→）

*横浜の「銀座」と呼ばれる

II 多品種集合店舗の進出

働工場（かんこうば、働業場・働商場）…銀座・新橋…全国の都市にうまれる

- ①経営者の異なる売店の集合施設、テナントショップ
- ②土足入場
- ③陳列販売／日用品・文房具・室内装飾品・舶来品・呉服・生地…

伊勢佐木…【大火前】（小働工場）正札屋・勝利屋 【大火後】横浜館・帝国商品館・東洋館

※明治末には姿を消す／横浜館⇒福宝堂直営映画館「横浜館」へ

III 呉服店の経営革新

デパートメント・ストア…陳列販売・ショーウィンドー・多品目・計画的売場配置・積極的な広告
「組織的働工場」『実業之横浜』明治 39(1906)年 11 月 25 日号

…デパートメント、ストアは働工場と同じやうに考へらるゝが働工場は単に多数小売商店の一
建物内に集合した丈のもので、其間に少しも統一的組織もなく又結合的勢力もないのである。

先駆は三越呉服店（「デパートメント・ストア宣言」明治 38 年 1 月）

明治 40 年代から横浜の呉服店で陳列売り・ショーウィンドー導入相次ぐ

鶴屋呉服店／野澤屋呉服店／相模屋呉服店…

横浜デパート化の先駆け、越前屋

明治 42 (1909) 年 5 月増新築開店、売り場 3 階建て＋屋上庭園

「シャワー効果」の導入 ④屋上庭園 ③均一部 ②呉服大物陳列場 ①雑貨部

*開業 5 日間で 20 万人の買客を集める

野澤屋呉服店伊勢佐木支店の開業 …明治 42 (1909) 年 11 月 2 階建て

「楽しき散歩」…マネキン人形をもちいたディスプレイ 身装部門中心の品揃え

IV 野澤屋のデパートメント化

大正 2 (1913) 年、茂木商店呉服部（弁天通）を伊勢佐木町支店に合併、野澤屋呉服店と改称
第一次大戦ブーム…合名会社茂木商店「三井を凌駕せんとせし…」

大正 9 (1920) 年茂木合名破綻、名古屋・瀧定助、横浜・亀井信二郎らが呉服店を存続

大正 10 年株式会社野澤屋呉服店開業→非身装部門の拡大

V 野澤屋にみる都市型消費とデパート文化

都市型消費とは…商品を「選択」、購入する。時代に尖端的な「消費」に触れる、楽しむ。

「シャワー効果」と催事・催事場のイベント／絵画会・展覧会・お伽会

洋装化と需要喚起／消費者としての「子ども」

未来の顧客喚起策…「中形浴衣地陳列会」昭和 5 年 3 月／女学生からデザイン公募・商品化
松屋と野澤屋、壽百貨店…その性格

●イセザキ……ときめきのゆくえ●

I 集客装置（映画館・百貨店）の喪失とイセザキ

盛り場としての「大衆性」…時代の動きを受け入れてきた柔軟性、その帰結としての現状…
文化の発信地、“出会い”“ときめき”の場の再生／外食チェーンのまち、からの転換

II 元町との比較

映画館・百貨店のなかった元町…モノづくりに根ざした商店街

1970 年代「ハマトラ」ブーム…山手・女子学生イメージの援用⇒雑誌『モトマチアン』

商店街としてのブランドイメージの構築⇒成長する顧客、維持する努力

イセザキの“トラディショナル”とは？（⇒大衆性）

⇒モノづくりに根ざした再生か、店の“顔”がみえるあたたかな商店街への再生か？

表1 吉田橋角～賑町一丁目角までの商店一覧

件数	娯楽・遊興	飲食(営業)	食品(小売)	被服関係	小売り	その他
9	空気銃			足袋商		
8		すし屋	せんべい屋	袋物商		
7		そば屋		呉服商	小間物屋・おもちゃ屋	
6		牛しゃも屋		洋貨商	薬屋	
5		てんぷら屋・しるこ屋			絵草紙屋	理髪店
4	劇場			下駄商	陶磁器店・たばこ店・時計店・雑誌店	
3	寄席	下等牛屋	はじけ豆	古着商	雑貨店・雑種店	
2	視機関・吹矢店・玉ころがし・源氏節		漬物屋・パン商・乾物商・洋酒商・菓子商	半襟店・洋服屋	荒物商・眼鏡商・洋燈商	写真師・湯屋
1	玉つき	蛤鍋・芝居茶屋・居酒屋・うなぎ屋	羊羹店・酒類業・銘酒屋	草履屋	紐類店・紙屋・ちようちん屋・石けん屋	活版業・名刺屋・ブリキ屋・新聞舗

出典:「横浜市の遊楽地」『横浜商業会議所月報』第4号(1897年1月号)

表2 伊勢佐木町～長島町までの商売一覧/明治36(1903)年2月25日

件数	娯楽・遊興	飲食(営業)	食品(小売)	被服関係	小売り	その他
11~17	玉ころがし(15)		たばこ屋(17)	呉服商(14)		理髪床(17)・無業(12)・空地空家(11)
10		そば屋	菓子商	足袋商	小間物屋	
9				下駄商		
8		鮓屋・牛肉屋				
7			酒屋		書肆・薬商	
6		めし屋	餅屋		唐物店・道具屋	宿屋
5		料理屋	乾物商・水菓子屋	古着屋	玩弄屋・ざる屋	
4	寄席・大弓場		豆屋		建具屋・荒物商	勤工場
3	劇場	鰻屋・天ぷら屋・洋食店・居酒屋・南京料理	煎餅屋・塩煎餅・漬物屋・飲食品店・茶商・砂糖屋・白米商		眼鏡屋・印判師・ランプ屋・袋物屋・金物屋	銀行・巡査派出所・寺院・湯屋・人力車帳場
2		牛めし・水屋	ラムネ屋	フラネル商・毛糸屋・草履屋・洋傘商	油屋・薪屋	雑商・女髪結・ブリキ屋・質屋
1		鳥屋	あられ屋・塩物屋・酒造家・八百屋・焼き芋屋・羊羹屋・今川焼・パン屋	メリヤス商・洋服店・靴屋・仕立屋・更紗屋	紙商・度量衡商・提灯屋・明樽屋・継箔屋・塗師職・陶器商・自転車商・鋳屋・絵草紙屋・靴店・綿屋・時計商・車製造・竹細工商	医師・ピラ屋・商替屋・染物屋・差配人・花車飾・仏師・写真師・かもし屋・運送屋・桶屋・貸下屋・水道事務所・雇人口入・屑屋・新聞社・活版所

出典:横浜新報社著作部編『横浜繁盛記』(1903年刊)

喜楽座の連鎖劇「横浜双紙」

寄席活動評判

「横浜双紙」と「一つ家」

△喜楽座の連鎖劇と寛演

▼二十一日よりの連鎖劇「横浜双紙」十二場は、略された語りにある通り「侠」「艶」と云つたやうな、湯女上りの藝妓に飾り氣のない苦學生を配し、それに吉例通りの同情者やら悪漢やらを取り込んで、走馬燈のやうに場面を變化させて行く、

▼前後十二場中、實物が八場、寫眞は四場に限り、何時もよりはフイルム節約の形はあるが、寫眞は本牧の花屋敷とか姿見町の料理屋福貴樓門口とか、伊勢佐木町通の追跡とか、馴染の場所が撮影されてゐるので、見物には適切に強い感じがあるらしい、

▼場面の最初は長岡街道から發足して、六場目の本牧花屋敷でお芝居が一轉化し、八場目の料理屋で女優連の咽喉を聞かせたり踊らせたりの大陽氣に、更にお景物には男優連の隠し藝までが連發されて、役者も見物も悉くいゝ氣持になる、寫眞の富貴樓門口の闘争では、同家の女中までが臨時雇の役者氣取りで寫つてゐる、伊勢佐木町通の立廻りでは、物見高い通り一杯の彌次馬を背景にしての撮影だから見物が大喜びだ、

『横浜貿易新報』

大正4 (1915) 年8月23日号

賑座・喜楽座の珍優
市川荒二郎

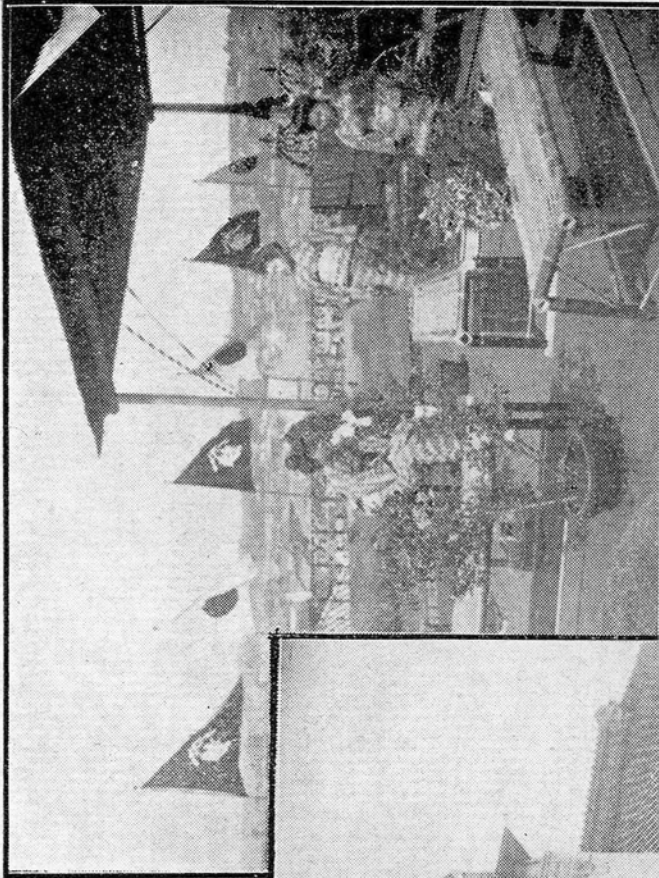


長谷川伸著『横浜白話』1954年刊

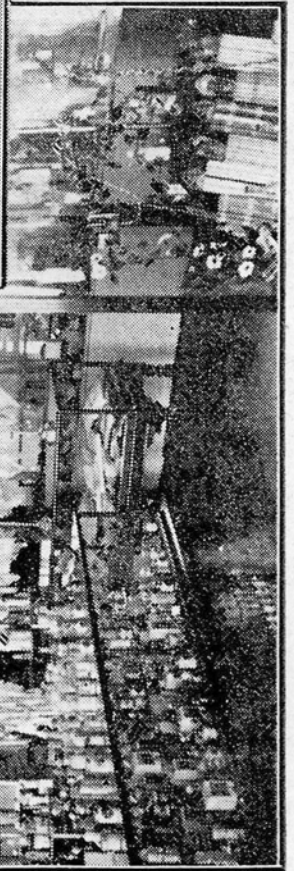
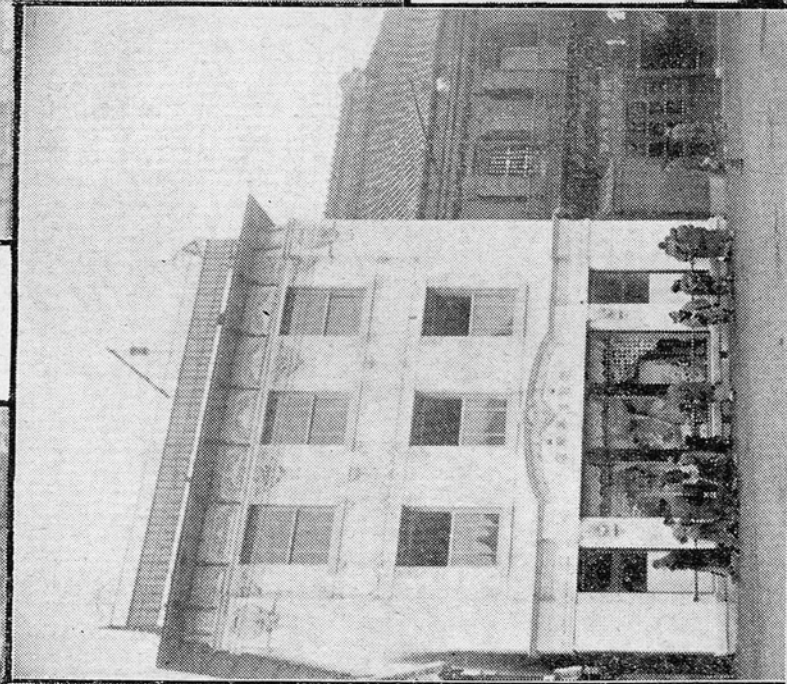
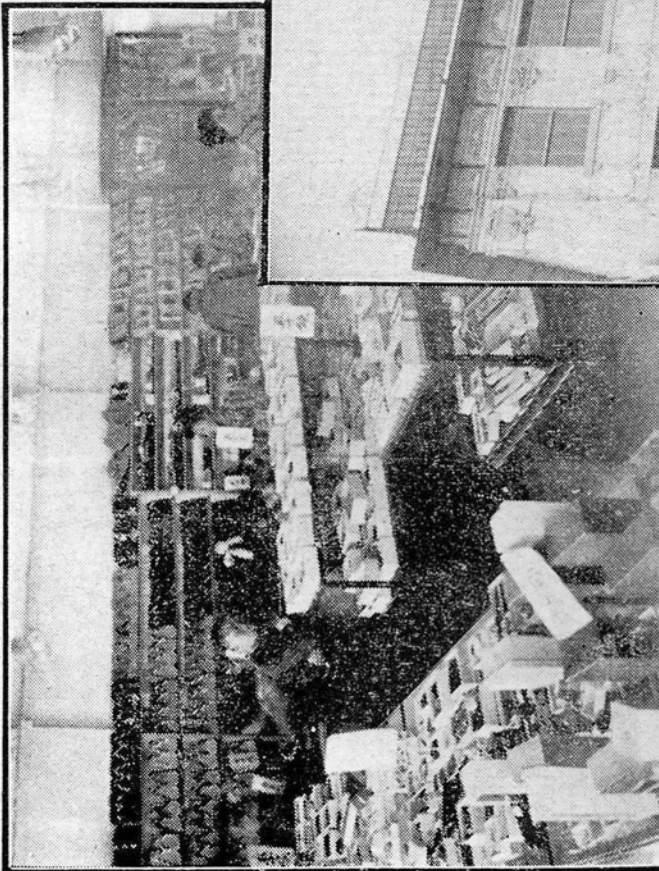
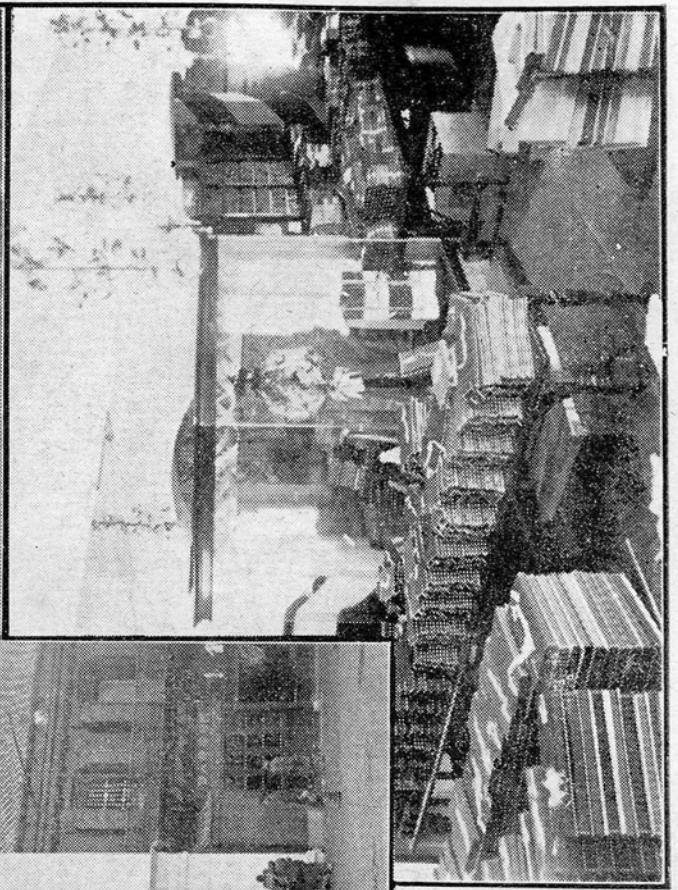
越前屋吳服店の新陳列場

——▷ 参事 照 ◁——

屋上庭園 (四階)



吳服大物陳列場 (貳階)



均一部 (参階)

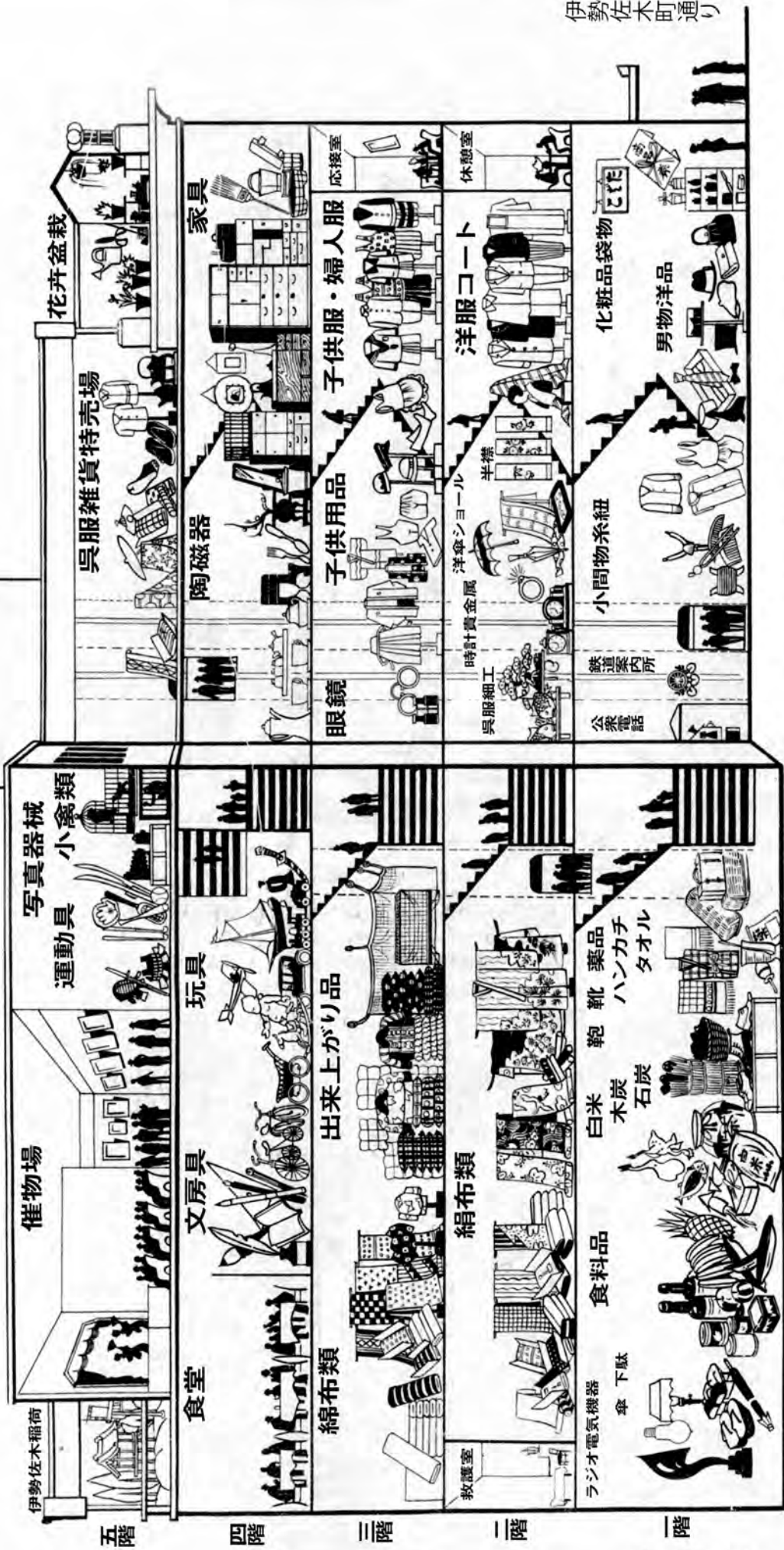
雜貨部 (階下)

(實業之横濱 第六卷第拾貳號)

陳列場外觀

野澤屋の売場配置図

昭和4 (1929) 年ころ



福富町

※野澤屋ダイレクトメール所収の資料 (脇沢家資料 / 横浜開港資料館所蔵) をベースに、文字を書き改め、通り名などを補訂した。

伊勢佐木町通り